

建築社会システム部門 ―パネルディスカッション (1)

持続可能性のためのガバナンスの実効性を上げるには

[資料あり]

9月12日(火) 9:00~12:30 オンライン 第K室

司会 下田吉之(大阪大学)

副司会 宇都正哲(東京都市大学)

記録 高木真太郎(東京大学)

1.主旨説明 野城智也(高知工科大学)

2.主題解説

①持続可能性向上のためのガバナンス手法の展開

小林 光(東京大学)

②静態的規制から動態的規制へ

西田裕子(自然エネルギー財団)

③カーボン・トレーディングの可能性

野城智也(前掲)

④市場・投資家によるガバナンス

堀江隆一(CSR デザイン環境投資顧問)

⑤デジタル化とガバナンス

金田真聡(建築家・DX戦略アーキテクト)

3.討論

4.まとめ 下田吉之(大阪大学)・宇都正哲(東京都市大学)

地球規模での環境変動が現実化し、災害の様態の多様化・高頻度化・激甚化や、経済社会を支えてきた自然資本や生態システムの毀損による食料・水供給など人々の生活を脅かす現象が顕在化している。

本パネルディスカッションはこのような状況をふまえ、建築・都市の持続可能性を担保・賦活させていくガバナンスのあり方を、従来の枠組みにとらわれることなく探索することを目的とする。

まず、長らく本主題に関わる行政のリーダーシップをふるってきた小林は、持続可能性向上のためのガバナンス手法がどのように展開してきているのか、その過去と未来に関わる展望を提示する。次に西田は、グローバルな視点から、規制手法の事例や、傾向を提示し、日本の規制枠組みの課題を示す。続いて、現実の市場経済システムのなかに、持続可能性を

向上させる動機付けを生成させる取組み例として、野城からは建築分野におけるカーボントレーディングの可能性について、堀江からは格付けなどを介した市場・投資家によるガバナンスの可能性について解説する。これらの仕組みが現実の取引コストのなかで稼働するためには、デジタル化されたデータの収集・流通することが大前提となる。金田は、こうした点も念頭におきつつ、デジタル化が、建築・都市のガバナンスにいかなる可能性を拓きつつあるのかを解説する。

討論においては、以上の主題解説を踏まえ、様々な側面から包括的な議論を行い、持続可能性に関わるガバナンスの実効性を向上させるための手がかりを得たい。